

重点目標	自己評価	手段	自己評価	手段	評価項目	肯定的評価(%)			来年度に向けての改善策	学校運営	
						生徒	保護	教師		評価	委員からの御意見等
学力の向上	3	わかる授業の充実	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業時数の確保と、履修内容の完全実施 ○ 指導法の改善工夫を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業に積極的に取り組めたか。(生徒) ○ 理解できるように工夫されているか。(教師) 	91	/	100	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4月22日から5月10日までが臨時休業となった。また、5月11日から5月22日までには分散登校や登校日を含めての授業となり授業時数の確保が心配された。そのため、1学期は「総合的な学習の時間」をカットし、教科の授業にすることで、2学期上旬には、ようやく全学年ともに通常の学習進度に追いついた。生徒も、臨時休業のため自宅待機期間が長かったこともあり、学校に登校し、友達と一緒に勉強することがいかに重要なことなのか実感したようである。教師は、「わかる授業」を構築するために工夫している。しかし、学力向上のために生徒が「わかる・できる！」が実感できるように教師の授業力向上に努めていきたい。 ○ 生徒・保護者ともに授業に対して肯定的意見である。生徒は授業には積極的に取り組む姿勢がみられる。しかし、わからないところを、その日のうちに解決しない生徒が全学年を通して多い。授業の中で、必ず質問する時間の確保を設定していきたい。 ○ 6人の「はげまし隊」の方に1年数学を中心に活動していただいている。昨年度より来校していただく日数が減少しているが、生徒の理解に応じて、細かい指導や学習内容理解の定着・深化に向けた支援だけでなく、学習態度等についてもサポートしていただいている。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全学年、概ね生徒は積極的に授業に取り組んでいると思う。 ○ 「わからないところを…」の評価は、生徒は少し上がってっているが、わからないところはその日のうちに解決できるように改善してほしい。 ○ コロナの影響で、臨時休業になり、授業時数の確保ができていいのか心配だったが、教育課程で工夫し、時数の確保ができていたと聞き安心した。
				<ul style="list-style-type: none"> ○ わからないところは、その日にうちに解決しているか。(生徒) ○ 教師は指導法の改善工夫を行っているか。(保護者・教師) ※ 保護者の方に対する「わかる授業の充実」については、この項目のみで調査を実施した。 	64	91	93				
		<ul style="list-style-type: none"> ○ 各教科で数値目標を設定し、基礎・基本の定着と思考力・判断力・表現力の育成を図る。 ○ 学習習慣を確立させ、自ら学ぼうとする態度を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基礎学力をつけるための努力をしているか。(生徒) ○ 子どもは基礎学力をつけるための努力をしているか。(保護者) ○ 基礎基本定着の手立てをとることができたか。(教師) 	84	73	86	<ul style="list-style-type: none"> ○ 8割を超える生徒が、基礎学力をつけるために努力をしている。基礎基本の定着及び主体的・対話的な学習活動を取り入れた授業に取り組んだ。保護者の肯定的評価が、昨年度より6ポイント上昇したがまだ不十分である。 ○ 家庭学習については、昨年度に比べ保護者の肯定感は5ポイント、生徒の肯定的評価が4ポイント上昇した。臨時休業中における、自宅学習の定着が少しずつ図られたのではないだろうか。生徒は、基礎学力をつける努力はしているが、自宅学習への取組が不十分であると認識している。課題の提出内容に個人差ができており、内容の改善や、根気強い指導を通して保護者と連携した改善を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 11月に授業を参観させていただいた時に、コロナ拡大の中に、子どもたちの前向きな学びに感動しました。パソコンを使う授業では、時代の流れを感じながら今後も更に難しい勉強にチャレンジしてほしいと思っています。 			
<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習習慣を確立させるための手立てをとることはできたか。(教師) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭学習は確実にできているか。(生徒) ○ 家庭学習は習慣化されているか。(保護者) ○ 学習習慣を確立させるための手立てをとることはできたか。(教師) 	78	77	69	<ul style="list-style-type: none"> ○ はげまし隊の方々のサポートは大きい。今後も継続していただきたい。 						
豊かな心の育成	3	キャリア教育の充実	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ キャリア教育の視点で教育活動に繋がりをもたせ、人間関係形成能力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 進路への関心が高まったか。(生徒) ○ 進路への関心が高まったと感じるか。(保護者) ○ 進路意識を高めることができたか。(教師) 	85	68	83	<ul style="list-style-type: none"> ○ キャリア教育については、3年生の「高校による出前授業」、1年生の「13歳のハローワーク」では、本年度も各学校や各事業所の方々から肯定的なご意見を多くいただいた。しかし、コロナの影響で2年生の職場体験学習は実施できなかった。その代わりに、「物作り体験講座」や、「中高連携講座」を実施した。今後もこのような貴重な体験を生徒の進路意識へとつなげていながら指導の充実を図っていきたい。 ○ 家庭で、夢や目標等を話し合っていると回答した保護者、生徒ともに8割を越えた。今後も家庭において、将来の夢や目標を話し合う機会を増やしてもらうために、高校説明会を含め進路情報の発信を行い、より積極的に将来について話し合う機会を作ってもらえるよう関係機関への協力を要請していきたい。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ キャリア教育については2年生の職場体験が実施できなかったのは残念だが、それに代わる、体験活動を実施したことは意義があると思う。
				<ul style="list-style-type: none"> ○ 日向市キャリア教育支援センター等との連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 将来の夢や目標を考えているか。(生徒) ○ 夢や目標を話し合っているか。(保護者) ○ 基礎的・汎用的能力を育成できたか。(教師) 	81	86	62			<ul style="list-style-type: none"> ○ 「13才のハローワーク」のお礼状もしっかりとした内容が書かれていた。
豊かな心の育成	3	道徳教育と人権教育の充実	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道徳に関する研修を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 有意義な時間であるか。(生徒・保護者) ○ 道徳教育の充実を図ることができたか。(教師) 	86	90	79	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「特別の教科 道徳」は生徒・保護者とも肯定的評価が8割を越えている。今後も道徳の評価についての研究や、授業の工夫について研修を深めなければならない。 ○ 人権教育については、1学期に行った「命の大切さを考える集会」は全校一斉放送で行い、教室で「未来へ命をつメッセージを色画用紙で作成し階段横に掲示し、意識の向上につなげられた。 ○ 「無言・気づきの清掃」については、生徒の評価が一番高い項目である。財光寺中の誇れる伝統であり、3年生の意識が特に高い。教師による評価が22ポイント上がった。清掃深化ウィークを設定をし、真剣に清掃に取り組む生徒を評価するグッドクリーンプロジェクトを実施したことで、生徒の清掃に対する意識が高まったと思われる。教師自身も率先垂範の姿勢が多く見られた。 ○ 学校生活で活躍できる場面について、生徒の評価は2ポイント、保護者 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道徳の授業は、短時間だったけれど、子ども達の自主的な発表をする姿が見られて良かった。
		無言・気づきの清掃の深化	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 清掃活動を師弟同行の学びの場とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 積極的に取り組めたか。(生徒) ○ 家庭でもお手伝いしているか。(保護者) ○ 無言清掃・気づきの清掃の充実・深化が図られたか。(教師) 	96	68	90			<ul style="list-style-type: none"> ○ 清掃深化ウィークを設定したことで清掃に対する意識が教師、生徒共に高まった。今後もさらに財光寺中の伝統である「無言・気づきの清掃」を深化させてほしい。
		絆づくりの推進 生徒会活動の活性化	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育活動の全てで生徒が活躍できる場面を実現し、自己有用感を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校生活で活躍できる場面やできそうな場面はあるか。(生徒・保護者) ○ 自己有用感を高めることができたか。(教師) 	80	77	93			

									の評価は8ポイント下降した。コロナ禍における、体育大会からスポーツフェスティバルへの変更や、3年生の保護者限定の観戦をお願いするなど、保護者の皆様には大変ご迷惑をおかけする結果になった。合唱コンクールが実施できなかったこともとても残念だった。しかし、生徒は、限られた条件の中で、精一杯活動し、学校行事で充実感や達成感を実感したと思われる。今後もキャリア教育の観点から、自己肯定感・自己有用感を高めるための手立てをさらに工夫改善していきたい。	○ コロナ禍の中、やれることは工夫してやっていると思われる。コロナが終息し、来年度は全ての保護者に生徒の活躍する場面を見せていただきたい。
健やかな体力の育成 安全教育の推進	3	体力の向上	3	○ 新体力テストを活用する。 ○ 部活動を活性化させる。	○ スポーツ等に積極的に活動できたか。(生徒・保護者) ○ 体力向上を意識した取組はできたか。(教師)	86	81	62	○ 体力向上については、生徒・保護者の評価は良好である。しかし、教師の評価が14ポイント下降した理由は、コロナの影響により、部活動の練習が十分にできなかったことや、練習試合や大会の中止等が大きな原因であると考えられる。	○ 大会等が中止になり、大変な中、部活動で生徒の活躍を聞きとてもうれしく思います。 ○ 3密を避けるための対策を取ってもらっている。コロナ関係で誹謗中傷はなかったのか。 ○ むし歯治療率が平均91%、はとでも高い数字ですばらしい。中学生のうちに治療してほしい。
		健康的な生活習慣 安全教育の推進	3	○ 健康・安全教育の推進を図る。 ○ 食育の推進を図る。	○ 健康・衛生面を考えて生活しているか。(生徒・保護者) ○ 健康・衛生・安全面の意識を高めることができたか。(教師)	96	92	97	○ 新型コロナウイルス感染防止のため、3密を避け、換気の徹底、手洗いの徹底、咳エチケット(マスクの着用)を呼びかけたため、生徒・保護者・職員ともに良好な評価となった。毎週点検している「さわやかチェック」でもハンカチ・ティッシュを身に付けており、爪も清潔にしている生徒が多数で結果も良い。また、教室等の消毒も職員、生徒で毎日行った。今年度は、インフルエンザ罹患生徒が一人も出ていない。今後も学校及び家庭で、「新しい生活様式」の徹底について指導を継続したい。 ○ 養護教諭の指導及び保護者の皆様の御協力により、今年度の生徒の「むし歯」治療率(2月10日現在)が1年生94%、2年生86%、3年生92%、平均91%であり、コロナの影響で治療に通うのが出遅れているが非常に高い結果となっている。保護者の皆様の御協力に感謝したい。今後も「むし歯」に罹患する生徒を減らすとともに、年度末は、治療率100%を目指したい。 ○ 本年度は、PTA保健部の活動は実施できなかった。	
地域社会との連携 広報活動の充実	3	家庭と学校の連携推進	3	○ 通信等で積極的に発信する。	○ 学校や学級からの文書を家の人に見せているか。(生徒) ○ 通信を見て、返信もできるだけ書いているか。(保護者) ○ 通信等で積極的に発信することができたか。(教師)	85	87	95	○ 学校からの情報発信は「学校だより」「学年だより」「学級だより」等を通して、定期的に行っている。「財光寺中学校ホームページ」も随時更新し、113,909件(2/10現在)のアクセス数がカウントされている。生徒が文書を保護者に渡している数値は昨年度より1ポイント下降しているが、保護者の評価結果については、27ポイント上昇している。 ○ PTA広報部の活動ができないなか、PTA本部役員と職員でPTA新聞「大樹」を年2回作成された。それぞれの号で、コロナ対策の記事や部活動、スポーツフェスティバル、2年生の修学旅行に代わる、五ヶ瀬スキー遠足の記事等を発信してくださっている。来年度も保護者の皆様と連携協力していきたい。	○ コロナの影響で学校と家庭がつながりにくい中、学級通信等で情報を得たいと考えている保護者が増えたのではないかと。 ○ ホームページが、随時更新されており、学校の行事、生徒の活動内容がよく理解できた。 ○ コロナの影響で、財光寺地区商店会の活動もできなかった。来年度は清掃活動を実施したい。 ○ 「13歳のハローワーク」では心配りのできた生徒が多かった。 ○ 浦安の舞、子ども獅子等の地域のことを伝承していくことも重要だと思う。また、見る時間の設定も必要である。
		地域社会との連携推進	2	○ 地域人材を活用する。 ○ 開かれた学校づくりを推進する。	○ 地域の行事やボランティア活動に参加できたか。(生徒・保護者) ○ 地域連携を意識した取組はできたか。(教師)	41	30	29	○ 地域人材の活用については、13歳のハローワークにおいて御協力いただいている。職場体験活動は、残念ながらコロナの影響で本年度は実施できなかった。今後とも積極的にお願していきたい。 ○ 本年度は、コロナの影響で、地域のボランティア活動も実施されず、参加することができなかった。しかし、五十猛神社の大祭で、浦安の舞を舞う生徒や、子ども獅子として地域に貢献する生徒もいた。大祭当日は雨のため、本校体育館で生徒が活躍する姿を3年生に披露することができた。来年度コロナの終息宣言等が出された時は、地域の中の学校を目指して地域のボランティア活動を奨励していきたい。 ○ 保護者の皆様には、スポーツフェスティバル前と卒業式前に、PTA奉仕作業に協力いただいた。校内の美化活動等積極的に参加していただき、学校にとってもとても有り難く、生徒たちにとっても良い刺激になっている。学校と地域との連携については、来年度も区長会、財光寺商店会と連携し充実させていく必要がある。	
	小学校との連携推進		○ 合同研修会を充実させる。	○ 合同研修会等を通して、小学校との連携を図ることができたか。(教師)				44	○ 本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の影響で小中合同研修会は実施できていない。	

次年度の方向性について
キャリア教育の視点に立って

- 1 学力を向上をめざし、基礎学力を定着させるとともに、主体的・対話的で深い学びの視点で授業に取り組み、思考力・表現力を高める。また、家庭学習の指導の充実を図る。
- 2 豊かな心を育成するために、道徳教育の一層の充実を図るとともに、生徒会活動や無言・気づきの清掃等、全ての教育活動を通して自己肯定感・自己有用感を高める。
- 3 体力の向上と健康的な生活習慣を育成するために、授業や部活動の充実を図るとともに、計画的に健康・安全教育、食育を推進する。「むし歯」を減らし、治療率100%を目指す。
- 4 地域社会との連携を推進するために、地域人材の活用、ボランティア活動への積極的な参加を通して、地域の中の学校という意識をより一層育てていく。